

## ツマベニチョウだより (第1号)

「翔ベツマベニチョウ」の小冊子をお届けして早くも1ヶ月が過ぎました。

この間、皆様のおかげで理解とお力添えのおかげで計画は順調に推移し、ただ今私の家のベランダでは合計148本のギョボクの挿し木と幼木が、次々に芽吹きつつあります。

挿し木はまだ緒についたばかりで、これからいっせいに芽を出す1、2週間後頃が最盛期になるのではと思っています。当初せいぜい150本も貰えるかと考えていました挿し穂が、この分では倍以上になるのは確実と、急いで挿し木をして下さる方を新しく見つけてホッとしているところです。

次に私は今、大変な幸運に恵まれている自分であることを実感しています。と申しますのは、これ以上のご指導、ご支援は得られない素晴らしいお方にめぐり会えたことと、願ってもない千載一遇の好機に恵まれたということです。

その方にご迷惑が掛かるといけませんので今お名前は申し上げませんが、県関係の重要な地位にあられるお方です。私の小冊子の趣旨にご賛同賜り、各方面の要路の皆様をはじめ関係箇所の方々に小冊子のことをご紹介戴き、そのご支援の態勢を作って下さいまして将来への期待と展望が大きく開けて来ました。

次の「千載一遇の好機」とは、南郷町の県の総合農業試験場亜熱帯作物支場が約26億円をかけて全面改築され、2000年に県民に解放されるというのです。(3月17日の宮崎日日新聞1面掲載)。そこにギョボクの森をつくりハイビスカスなどをいっぱい植えて貰えば、鶴戸神宮とともに現在北限の棲息地となっている対岸の大島から、ツマベニチョウが飛んで来て繁殖するものと考えられ、誘引計画は一気に前進すると思われれます。

そこで県の農政水産部にお伺いしてそのことをお願いしましたところ、県でも大島のツマベニチョウのことはご承知で、支場内にも大きなギョボクが植わっていると言われ、私の申し出にご賛成のうえ、私たちが育てた苗を支場内にいくらかでも植栽して下さいになりました。そしてギョボクの苗を育てる上で一番困っている問題として「一般家庭では2~3年間寒害から守るのに手がかかる」旨をお話し、「出来ましたら今年挿し木して活着した苗から秋に引き取って戴き、支場で育てて下さいませんか」とお願いしましたところ、「よろしいですよ」と快諾して下さいました。

前書きが長くなりました。次にこれまでに挿し木用の穂木をご提供戴きました方や、今後ご提供下さいます方のご芳名をご紹介しまして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。皆様まことに有り難うございました。

### ※ 挿し木用の穂木を提供して戴きました方々

長 渡 達 夫 様 87本 (成木3本と根付き苗数本を含む)

山 崎 浩 様 47本

久 保 田 正 昭 様 14鉢 (1年生の苗)

### ※ 近く穂木を戴く予定の方々

中 尾 景 吉 様 井 上 正 光 様 菊 地 清 子 様

宮 本 勝 彦 様 宮 川 千 明 様 氏 川 豪 勇 様

島 田 清 巳 様 宮崎交通いるか岬様 鶴 戸 神 宮 様

なお明日4月12日には鹿児島市の馬場一吉様のお宅にお伺いして穂木と苗木をまとめて戴く予定です。 平成10年4月11日 海老原秀夫